

市民活動センター

たちかわ通信



編集・発行

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会 市民活動センターたちかわ
〒190-0013 立川市富士見町 2-36-47 Tel.042-529-8323 Fax.042-529-8714
Email aiaivc@whi.m-net.ne.jp URL <http://act.annex-tachikawa.com/>

開所日・時間

(月)～(金) 8:30～19:00
(土) 8:30～17:15日・祝日はお休みです。

市民活動センターたちかわは、ボランティアやNPO・地域活動などあらゆる市民活動をサポートするセンターです。

2005.5 Vol.26

目次

<特集！>

P 2～3 ～平成16年度市民活動センターたちかわ助成金事業～
こういう活動に活かされました

<イベント・講習・講座など>

P 4 第1回無料耐震相談会を実施します！

P 4 出産・子育て応援イベント 子産み・子育て 多摩らんなあ

<各種助成事業のご案内です>

P 5 平成17年度「子育て家庭支援活動」
公益信託 オラクル有志の会ボランティア基金
財団法人 太陽生命ひまわり厚生財団

<市民活動センターたちかわより>

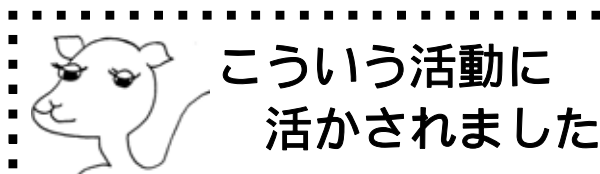
P 6 「TSUNAMI」を子どもたちにどう教える？
～災害を自分のこととして感じる～

P 6 出前講座をステップアップさせるための研修
～子どもたちに伝える力をつけたい～

P 7 第3回市民おもしろ大学 フィンランドの自然と文化と神話
～そしてカンテレ演奏の夕べ～

注目！

おすすめ！



平成16年度は市内50団体がこの助成事業を利用されました。事業報告が揃い次第、再度この紙面でご報告をしたいと思います。今回は団体紹介も含めて、2つの団体の報告をしたいと思います。

チャイルドライン たちかわ

目的：子ども専用のヘルプラインという活動を通して、子どもが自分をかけがえのない人間であることに気づき自分を大切に思い、自分の考え・他人の考えの違いを自覚し自立・成長していくことを援助する。

助成：研修会講師謝礼など として 100,000円

子ども達を取り巻く状況については議論が多く飛び交っています。支援の仕方も様々ですが、チャイルドラインもその一つです。結成メンバーでもある北原さんと山中さんのお二人に、お話を伺いました。

チャイルドラインたちかわ結成の経緯

お二人は立川市子ども21プラン策定に向けての市民委員会に参画していました。平成15年12月、子どもの権利についての学習会が開催された時に集っていた人で、都内ですでにチャイルドラインの聞き手の活動をしている人と出会いました。また市民委員の中には中学生もいて、ちょうど「自分達の声や思いを受け止めてくれるところがない」という意見も出ていたのが気になっていたところでした。そこで自分達にも何かできることはないだろうか、という思いがチャイルドラインたちかわ発足のきっかけに繋がりました。その後の準備は早く、平成16年2月には主なメンバーが集まり、準備会を発足し、その直後の4月には助成金の申請に至っています。

チャイルドラインとは？

チャイルドラインは、子どもたちが匿名で電話をかけてきて悩みや思いを話すことができる、子ども専用電話です。子どもの思いに耳を傾けて寄り添うことで、自分で歩いていく力を持つように支援するのが受け手である大人の役割です。発祥地イギリスでは24時間フリーダイヤルで開設、日本でも世田谷などでは平日に常設されている電話があります。全国的には50団体以上が活動をスタートさせています。

研修を経て「特設電話」の開設へ

今回センターで助成をした研修事業で、チャイルドラインたちかわの受け手を養成しました。良い受け手になるには子どもに対する強い思いと平行して適切な技術が必要です。そこで7回にわたり臨床心理士やスクールカウンセラーを招き、ロールプレイ



(実演研修)も含めた研修が実施されました。

本当はもっと研修したい、この活動は奥が深いという実感をもった会員も多かったようです。そんな不安を抱えながらも、平成17年3月に3日間の「チャイルドラインたちかわ」特設電話を開設させます。キャンペーン用のカード作り、教育委員会や学校、関係機関への働きかけも、市内の子どもたちに電話の存在が知られるように広報活動をしました。(写真は特設期間用のカード)

「親には相談できない」「友だちにも言えない」

3日間の開設でかかってきた電話は78件。万が一に備え、児童相談所などの支援をもらった上での活動で、その協力が心強かったと言います。

子ども達からの相談内容は大人から見れば本当に些細なこともあるかも知れませんが、誰にも話すことができず、一人で抱え込んで気持ちを重くしている様子が伝わってきたと言います。中には深刻な相談もありました。「匿名」「秘密厳守」で安心して話を聞いてもらえるこの活動が広がる必要性を感じます。

是非、常設のチャイルドラインに

今後は、やはり電話を常設にしたい、という希望を強く持っています。それにはスタッフの育成・増員、財政的な充実などクリアしていく課題がたくさんあります。電話の受け手はいつも募集しているわけではありませんが、受け手以外にも、事務運営のスタッフとしての活動を通して子どもの支援に当たることも可能です。ご興味のある方はお問合せしてみてください。

チャイルドラインたちかわ 事務局

080-5524-4601

たちかわ発 地球クラブ・イーグル

目的：すべてのペットが家族の一員として幸せに暮せる地域社会の実現を願って活動しています。

助成：機材購入費 などとして 100,000 円

地球クラブ・イーグル(以下イーグル)の捕獲器はいつもフル稼働しているそうです。会員が分担で、近所の飼い主のいない猫を捕獲し、不妊・去勢手術につなげるためです。昨年度の助成金によって5台購入し、合計8台になりました。具体的な活動や基本方針について野口さんと狩森さんの説明を頂きました。

「野良猫」の問題は人間の問題

「野良猫が仔猫を産んだ。どこかへやって欲しい」そんな依頼がよく舞い込みます。ですが、イーグルには保護をするシェルターも、財源もありません。そういう問題はイーグルが解決をしてしまうのではなく、連絡をくれた人や地域自治会などに力を貸してくれるように働

(シュールな図ですが、こんな風に捕獲・保護されます)



きかけます。何度か話し合いをもったり、里親を探す手伝いなどをし、猫嫌いの人にも、猫と同じ地域で共生してもらえるように、理解や妥協をしてもらうのが活動の進め方です。

狩森さんは「猫はあまり好きではない…」

ところで、ボランティアグループの中では珍しいと思いますが、狩森さんは猫はあまり好きではないそうです。猫に餌を与えて餓死させないように見守る、どちらかと言えば、環境保全とやさしい人間作りのための活動と言えるかもしれません。猫に餌をあげている人がいれば「餌をあげてくれて有難うね、でもね…」と不妊・去勢の大切さを訴えて仲間になってもらい、自らも他の会員同様に持ち出しで猫を捕獲・保護し地域猫として生活できるように環境を整えます。また月に一度は猫が埋めた糞を掘り起こして回収する「ウンチパトロール」もします。

(昨年、仔猫は31頭を保護、里親に出した)



猫が嫌いな人の気持ちも良く分かります。自分が餌をあげているわけではなくても、まずはホウキを持って糞の始末など地域の掃除をする、こういう啓発活動の中で地域猫の存在を容認してくれるようになった地域も出始めました。

オフィスビルでの取り組み

住人のいない駅近くのあるオフィスビルには、置き餌をする人がいたこともあり、一時期飼い主のいない猫が増えて、20頭以上にもなり問題になっていました。そこでイーグルでは実態調査をし、この地域で集中的な活動することにしました。イーグルはここでも周りの人の力を借り出します。ビルに入っている一つ一つの企業に、これから地域猫にしていくために不妊・去勢をする旨のあいさつと協力依頼をして廻り、手術代の寄付も集まりました。それに留まらず、手術が完了した時点でもその経過報告を周知し、最後は、他のビルを清掃している人や管理人さんなどに対しても、地域猫が安心して餌を食べられるように、お願いの声かけをします。一昔前の近所づきあいの知恵が活動に活かされているように思われました。現在は、まだ手術が完了していない猫が数匹残っており、放ってはおけません、費用が足りない状況です。

今後の活動予定

今までイーグルは市内の4地区で主に活動してきました。他の地域も気になる場所が多く存在します。どこから取り組むかを決めるために実態調査をしている最中だそうです。それは、予算の有効活用のためであり、また優先地区を選ぶ際、会員の合意形成をするためでもあります。

イーグルの会員は現在57人、啓発活動・捕獲・掃除活動・バザーの手伝いなど、自分達にできることを無理せずにやるようにしています。もちろん猫が苦手な人でも参加できます。ご興味のある方は当センターへお問合せ下さい。

情報をお寄せください！ みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください

情報コーナー

～イベント・講習・講座・ボランティア情報など～

ここに掲載されている情報の詳細に関しては、直接主催団体にお問い合わせください。

このコーナーは、市民活動やボランティア活動に関するイベント等の情報を毎月掲載しています。またこのコーナーへ掲載する情報も随時募集しています。掲載ご希望の方は毎月20日までにご連絡ください。



イベント・講習・講座

2005年5月度パソコン教室午前コース

今年パソコンを是非覚えたい、頑張ろうと思っているあなたに! 熟年の方々大歓迎! 片麻痺の方々に! メールでの出会いがあります。チャレンジしてみませんか? 自前のパソコン持込みをおすすめします。
日時: 5月11日～6月8日(毎週水曜日)

10:30～12:30

場所: 立川市総合福祉センター 2階
費用: 1,600円(テキスト代・資料代含む)

定員: 4名 持ち物: 筆記用具

問合せ・申込み: 片麻痺ネットワーク (事務局: 田淵)

TEL: 186-042-344-4033

mail tabuti_y@za2.so-net.ne.jp



至誠キートスホームからのお知らせ

「多民族国家アメリカ社会あれこれ」

～14年間のアメリカ滞在体験から～

講師は長年に渡りアメリカの東北部のコネティカット州の日系企業で経営についておりました。その時の経験をお話いただきます。

日時: 5月14日(土) 14:00～16:00

場所: 至誠キートスホーム1F食堂

講師: 渡辺 勇 氏

(環太平洋経営研究所代表理事/立川市栄町在住)

入場料: 無料(先着30名先着順)

主催: 至誠キートスデイサービス 担当: 藤井

「タンゴの調べ」

昔なつかしいタンゴをトリオでお楽しみ下さい。

日時: 5月21日(土) 14:00頃開演

場所: 至誠キートスホーム

入場料: 無料

主催: 至誠キートス悠遊倶楽部(至誠キートス家族会)

担当: (キートス特養) 鈴木

双方とも、申込は電話かFAX、問合せは電話にて

TEL: 042-538-2323 FAX: 042-538-1302

第1回無料耐震相談会を実施します!

昨年発生した新潟中越地震の被害でも明らかになったように、現行の新耐震基準を満たしていない建物については倒壊する危険性が高いことは言うまでもありません。また、今年3月に発生した福岡県西方沖地震では、本震でダメージを受けた建物が余震で倒壊したということもあります。ご自身の大切な財産を守るため、

ご家族の安全を確保するため、耐震診断や耐震補強についてご検討されている方や関心をお持ちの方は、どんなことでも構いません。是非この機会を逃すことなくご利用下さい。私たちの知識と経験の全てを活用し親切丁寧にご相談をお受け致します。

尚、当日お待ちいただくことがないよう予約制とさせていただきます。E-mailまたはFAXにて予めお申込み下さいますようお願い致します。

時間: 5月21日(土) 10:00～16:00 費用: 無料

場所: 立川市総合福祉センター2F

ボランティアルーム

お問合せ:

NPO法人「欠陥住宅を防ぎ耐震補強を推進する会」

〒190-0012 立川市曙町2-9-1 菊屋ビル

TEL: 042-522-6198 FAX: 042-522-6178

E-mail: info@npo-taisin.com

HP: http://www.npo-taisin.com

出産・子育て応援イベント

子産み・子育て 多摩らんなぁ

「多摩らんなぁ」は多摩地区で活動する助産婦と多摩に住むママたちが「出産・子育てイベントを私達の住む多摩で!」と企画しました。お産やおっぱい、生涯にわたる女性の健康のことなど、助産婦と語り合ってみませんか?

日時: 5月22日(日) 10:00～16:00

場所: 立川市女性総合センター アイム

入場料: 事前予約300円(当日500円)

公演/講演: 1席500円(事前予約・当日共)

ワークショップ: 参加無料

事前予約受付期間は5月10日まで(下記HPから)

【ホール】

絵本ライブ/講演「お産が生むもの」立ちすくむ母親たち

【健康サロン】

バランスボール/手ぶらで手作りおもちゃ体験

【5階スペース】

助産婦とオシャベリ!のお部屋/赤ちゃんと絆をつくるお部屋/クッキングのお部屋

詳しくは http://www.geocities.jp/tamara_nar/

お問合せ先は

090-9214-1399(滝沢) 070-5556-9510(平出)

「ボランティア講座受講生募集」

本講座は、心身に障害を持った方への援助方法な

情報をお寄せください! みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください

どを基礎から実践的に学び、当施設の利用者はもとより、地域で暮らす方々へのボランティア活動を積極的に推し進めて頂けるように計画しました。この機会に是非ご参加下さい。お待ちしております。

- .6月11日(土)9:00~12:30車椅子で散歩に出よう
- .7月2日(土)9:00~12:30利用者と一緒に遊ぼう
- .8月27日(土)9:30~13:00摂食の援助方法を学ぼう
- .10月2日(日)9:00~16:30みどり祭りに参加しよう
- .病棟行事に参加しよう(10~11月中に数回,1回は参加)
- .11月26日(土)11:30~13:00「修了式及び懇親会」

場所：東京小児療育病院・みどり愛育園通所訓練棟
職員研修室及び多目的ホール

参加費：無料

その他：高校生・大学生・社会人・定年を迎えた方など、
どなたでも受講できます。5月27日(金)締切り

申込・問合せ：東京小児療育病院・みどり愛育園
ボランティア委員会高野(庶務課) 大川(ケースワーカー)
〒208-0011武蔵村山市学園4-10-1

電話：042-561-2521 FAX：042-566-3753

「CEP親子の安全トレーニング実施記録2004」 を差し上げます。

2004年度に市民活動センターたちかわの助成を受け、幼い子どもの連れ去り事件を防止するため親子で参加するトレーニングを幼稚園、保育園、小学校、公民館などで実施し、その記録をまとめました。子ども自身が「自分を大切にされていることを実感すること、ロールプレイをとおして直感力を引き出し、達成感と自分を守る自信を身に付けることができるプログラムです。教育関係者や保護者の方で関心のある方はお申し込みください。送料として切手140円分をお送りください。折り返し郵送します。先着30人まで。(1人1冊に限り)

申込・問合せ：NPO法人CEP・子どもひろば
〒208-0002 武蔵村山市神明2-38-18 担当：高橋
TEL&FAX：042-561-8323
E-mail kodomohiroba@yahoo.co.jp

ひと・モノ・募集

ベビーシッターのボランティア募集！

毎週火曜日、ママさんバレーをしています。小さいお子さんがいて、活動に来て子どもが泣いたり手をはなせずバレーができません。
お手伝いしていただける方を探しています。

日時：毎週火曜日 19:00~21:00

場所：立川第4小学校

申込・問合せ：

D.D.SURPRISE(ディー・ディー・サプライズ)

TEL：042-522-3552 (斉藤 利子)



助成情報

平成17年度「子育て家庭支援活動」

助成対象となる活動・団体：

日本国内において、就学前の子どもを保護者等(妊婦等を含む)に対する支援活動を行っている非営利の民間団体・グループ(法人格の有無は問わない)

対象となる活動の例

- ・学習会活動(育児勉強会等の開催等)
- ・相談活動(子育て相談・カウンセリング等)
- ・情報提供活動(子育て情報誌等発行等)
- ・交流活動(親子の集い・情報交換の場の提供等)

申込受付期間：5月20日(金)〔当日消印有効〕

主催・問合せ・申込先：

社団法人

生命保険協会「子育て家庭支援活動」事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1

新国際ビル3階 <http://www.seiho.or.jp>

TEL: 03-3286-2643 FAX: 03-3286-2730

公益信託 オラクル有志の会ボランティア基金

助成対象：

東京都において社会的な貢献活動を行う都内に事務所を置く市民活動団体で、平成17年度に行うプロジェクト事業に対する助成。

応募締切：5月31日(月) 当日消印有効

申請書請求・問合せ・提出先：

UFJ信託銀行リテール統括部

受託財産管理ライン (担当:江川・中川)

〒100-0005 千代田区丸の内1-4-3

TEL:03-3218-0718 FAX: 03-3212-2320

<http://charitable-trust.oracle.co.jp/>

主催:公益信託オラクル有志の会ボランティア基金

財団法人 太陽生命ひまわり厚生財団

平成17年度 社会福祉助成事業応募要項

助成事業および金額

.事業助成(上限50万円)

- 1.高齢者の自助・自立を支援する事業への助成
- 2.民間ボランティアグループが行う事業への助成
- 3.障害者の福祉に関し啓発し、開発し、または普及深化させる事業への助成
- 4.障害者に対する授産施設または小規模作業所を整備する事業への助成

.研究助成(上限70万円)

- 1.老人保健、生活習慣病または高齢者福祉に関する研究・調査への助成

応募の締切：6月末日、郵送による必着とします。

主催：財団法人 太陽生命ひまわり厚生財団事務局

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-11-2

太陽生命ビル内

TEL/FAX:03-3272-6268



情報をお寄せください！ みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください



「TSUNAMI」を子どもたちにどう教える？ ～災害を自分のこととして感じる～

昨年未のスマトラ島沖地震での被災地は、今でも以前の生活を取り戻せていないところがほとんどですが、すでに報道量は少なくなり、まるで被災地からは問題がなくなったかの様な錯覚を覚えます。この災害について、各家庭や学校では子どもたちと何か話し合いがされたでしょうか？

去る3月31日、当センターはNGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下SCJ)/問合せ先などは当センターへ)と共催で小学生向けにワークショップを開きました。開催の目的は、子どもたちに「災害を自分の事としてとらえる」ことで、世界とのつながりや地球市民としての協力を学んでもらうこと、としました。

当日は、同様のプログラムを受けた市内の小学生が何人も「再受講」してくれたのを合わせて、全部で15人、遠くは武蔵野市からの参加者もいました。まずはゲーム

で気持ちをほぐした後、津波による被害を受けた現地の様子等を写真で見ます。また被災地の子ども達の現在の生活の様子に触れたり、被災した子どもが書いた作文を聞いたり等、出来るだけ 自分に引き寄せ (まずはゲームで「ほぐし」)



せて考えられるような題材を提供します。その上で少人数のグループに分かれ、「被災地の子どもたちに必要なものは何だろう」と問いかけ、ひとつずつ付箋に書いていきます(写真左)。最後に被災直

後、一ヵ月後など、時間の経過に沿って、付箋に書かれた「必要なもの」を並べ替えていきます。それによって、被災した子どもの立場になり、本当に被災地にとって必要な支援は何かを考えてもらう流れになっています。

どの過程にも工夫がなされています。とくに各グループにはSCJのスタッフが入り、照れている子から意見を引き出したり、さらに質問を重ねる場面があります。丁寧にグループワークを進めますが、これがとても大事な作業だと感じました。子ども達の感想文はこちらが意外に思うことを感じ取ってくれていることもあります。それは一方的に何かを教え込む形態では出てこないかも知れませんが、こういう企画では一つの答えを導き出すことはしません。子ども達が今後も問いを持ち続けることが成果であり、こういう企画を増やしていく必要性も感じました。



出前講座をステップアップさせるための研修～子どもたちに伝える力をつけたい～

公立小中学校に総合的な学習の時間が導入された平成12年度以降、地域の人や市民活動団体の多くが学校の授業に参画しています。障害のある人たちもひっぱりだこの状況。「障害者をこども時代から当たり前のこととして知ってもらいたい」「学校の応援をすることは障害者の社会参画のひとつでもある」という思いから「出前講座」という名のもとに多くの人々が学校や子どもたちと関わってきました。

新しい学年もスタートし、今年も多くの依頼が寄せられる前に、ちょっと立ち止まり、協力者としての力を蓄える研修を持とうじゃないかと4月21日に25名が集まりました。

まず 自分たちに関わることで子どもたちがどんな大人になってほしいか 子どもたちと関わる中で自分が気付かされたこと、を出し合いました。 については、「おかしいことはおかしいと言える大人に」「個性や他者を受け入れられる大人に」 については、「興味を持った時の集中力はすごい」「歩み寄ることが大切」など参加者の数だけ答えが出てきました。

また、最近多くなっている「90分の授業を3回受け持つ」ことを想定しながら、授業づくりのアイデアを出し合いました。目的を明確にし、3回それぞれの意味と流れを意識し、子どもたちひとりひとりに何を配慮しながら進め



るかにについてグループに分かれ深め合いました。(左の写真)

実際に授業に協力する際は学校の先生との連携がかかせず、また、協力者が難しさを感じていることでもあります。研修には実践を共に積み重ねてきた第6小学校の竹山先生にも参画していただき、先生ご自身がどうして地域の人や障害のある人と一緒に取り組みたいのか、苦労していることは何かを率直に語っていただきました。

「今年も多くの子どもと関わっていこう」。心の準備は万全です。新たに一緒にやろうという学校、子どもたちのお誘いにもこたえていきます。ご一報ください。

第3回 市民おもしろ大学

フィンランドの自然と文化と神話 ～そして、カンテレ演奏の夕べ～

大好評の第2回満を持して第3回開催

大好評をいただいた第2回市民おもしろ大学「ハイパーレスキュー隊と新潟中越地震災害の活動(講師:東京都消防庁第八方面本部 ハイパーレスキュー隊 隊長巻田隆史さん)」、135名にも上った参加者からは多くの熱いメッセージが多数寄せられました(通信Vol.24参照)。講師の人柄に触れ、熱いものを感じ、自分の中にある何かを変えられた、そんな人達で会場は溢れ、講演終了後も多くの人々が語り合っていました。

あれから3ヶ月、いよいよ第3回市民おもしろ大学開催です。

第3回市民おもしろ大学は2本立て

自然、文化、教育、今各方面から注目を浴びている国フィンランド、今回は、フィンランドに縁の深いお二人に講演いただきます。一人は、フィンランド出身で日本とフィンランドを結ぶ架け橋のような存在、東海大学北欧学科で教鞭を取る橋本ライヤさん。もう一人は、カンテレ奏者のはざた雅子さん、フィンランドの民族楽器・カンテレの繊細でやわらかな音色は聴く人を包み込んでいくかのようです。

過酷な大自然との共存、それは100年先を考えて行動するフィンランドの生き方にあることを皆さんご存知でしょうか。時間に追われる生活の中で大切な何かを忘れてしまいそうになる、そんな時、日本とフィンランドをよく知る橋本ライヤさんだからこそできる自然と文化と神話の話の聴き、カンテレの優しい音色に包まれる2時間を皆さん体験してみませんか。

講師プロフィール

橋本ライヤ

フィンランド生まれ。1974年ユヴァスキュラ大学卒(言語学、政治学専攻)。

同年来日。1975～1977年国際基督教大学研究生。現在、東海大学北欧学科でフィンランド語とフィンランド文化・文学を教える。またフィンランド新聞の通信員として日本を母国に紹介している。

日本とフィンランドの架け橋として幅広く活動を続けている。

その他、高齢者総合福祉施設至誠ホームにてクラブ活動指導及び国際交流担当。北欧文化協会理事。(社)日本フィンランド協会理事。

はざた雅子(カンテレ奏者)

1985年 ラハティで開かれたカンテレサマーキャンプに参加。

1988年 シベリウスアカデミー国立音楽大学カンテレスロ科で、リトバ・コイスティネンに師事。

1989年 アンニッキ・スモライダー＝ハウボネン主催のカンテレグループ「カエンピーカ」のメンバーとなり、フィンランド国内で演奏活動をする。

1991年 復活祭にローマ教皇にカンテレを披露する。シベリウスアカデミー国立音楽大学民族学部で5弦のカンテレをミンナ・ラスキネンに師事。

1994年 帰国。翌年より東京を中心に演奏活動を始め、カンテレノ普及と後進の育成にも努めている。

1998年 日本で初めてのカンテレ・ソロアルバム「カンテレ」をサンバウロより発売。

1999年 NHKラジオジャパン「ミュージックヒート」に出演。

2000年 オカリナ奏者宗次朗と「天空のオリオン」・「デュエット」で共演。

2002年 ローマで開催された「ハランペー2002基金」コンサートに出演。

2003年 オリジナル曲集「カンテレ」を発売。

2004年 NHK「ラジオタ刊」に出演。

第3回 市民おもしろ大学

日程:5月28日(土)

開場:18:30 開演19:00

内容:第1部 橋本ライヤさん講演

第2部 はざた雅子さん公演

場所:女性総合センター・アイム 1階ホール

参加費:無料 要電話予約

予約・問合せ:市民活動センターたちかわ

NPO・ボランティアのための団体運営ノウハウ相談

実際にNPO法人として活動している団体が運営について個別にご相談にのります。

事前に市民活動センターまで電話かメールでご連絡下さい。(1団体1時間以内)

相談日時は調整させていただきます。ご予約の際は、簡単なご相談内容をお知らせください。

回答に資料準備や調査が必要になる場合、相談日の後に回答をさせて頂くこともあります。

協力:市民活動サポートセンター・アンティ多摩

情報をお寄せください! みなさまからのご意見・掲載情報をお待ちしています。詳しくは電話またはメールにてご連絡ください

ご協力ありがとうございます！

『市民活動センター たちかわ通信』を常設しているところ(下記の場所で受け取ることができます)

立川市社会福祉協議会・市内各公民館・図書館・福祉会館・学習等供用施設
フレンド書房・セイフー立川若葉店・モスバーガー立川高松町店・ローソン若葉町一丁目店
トヨタ西東京カローラ立川富士見町店・レストランサラ・東京ボランティア・市民活動センター

一部地域に新聞折込をいただいています

YC読売新聞立川北部サービスセンターの皆様のご好意により、
読売新聞をご購読の方は折り込みにて配布されます。(栄町・高松町・曙町の一部)



市民活動センターたちかわの おすすめ活用法

ホームページ「市民活動WEBたちかわ」

登録団体はホームページのシステムを無料でご利用いただけます。講座のお知らせなど自由な更新が可能となっております。ぜひご利用を。



市民活動センターに登録しませんか？

登録していただくと市民活動センターの広報媒体を使い広く市民のみなさまに活動を広報できるほか、団体として貸室の予約が早く申し込める、印刷機が安く使用することが出来るなどのメリットもあります。毎年4月の更新です。

登録のご希望は市民活動センターまでご連絡ください。

Tel 042-529-8323 Fax 042-529-8714

Email aiaivc@whi.m-net.ne.jp

会議にイベントに…是非ご利用ください！



貸し出しスペースについて

- ・ボランティアルームふじみ(立川市総合福祉センター内)
- ・ボランティアルームしばざき(立川市シルバー人材センター内)
- ・事務所前のスペース(活動センター前)

活動センター前では無線でインターネットがご使用になれます。

お申し込み方法

事前にお電話が来所にてお申し込みください。先着順とさせていただきます。
(登録グループは優先予約あり)

交通アクセス:

JR立川北口駅より徒歩15分、JR西立川駅より徒歩8分。北口バス停 乗り場、富士見町2丁目下車徒歩4分。立川市女性総合センターアタイム前発くるりんバス、南くるりん左回り乗車。『総合福祉センター前』下車徒歩0分、平日は無料シャトルバスが立川駅北口バスロータリー交番前より 9:50、10:30、11:10、11:50、13:10、13:50、14:30に出ています。

